

# 第2回 阿佐東線DMV導入協議会

平成29年2月3日(金) 14:00～  
徳島グランヴィリオホテル

## 【議事】

- ①これまでの取組み内容
- ②本日の協議事項
  - I DMVの運行区間について
  - II 車両の製作台数について
  - III 導入スケジュールと概算事業費について
- ③今後の検討事項



## 阿佐東線への「DMV導入」の目的①

### ① 阿佐東地域の活性化に貢献

- 「世界初」「オンリーワン」という、  
好条件の本格的な営業運行を  
最大限に活かすことで阿佐東地域を活性化
- 線路と道路の両方を走れる「新たな乗り物」であるDMVは、  
「車両自体が観光資源」となることから、  
「新たな人の流れ」をつくり  
観光振興に大きく寄与するもの

## 阿佐東線への「DMV導入」の目的②

### ② 地域公共交通の維持・充実に貢献

#### (1) 阿佐海岸鉄道(株)の経営改善

マイクロバスをベース車として改造するDMVは、  
現行のディーゼル車と比較し  
燃費が良く、維持費の削減に期待できる

#### (2) シームレスな交通体系の実現

- ・ 鉄道とバスのシームレスな交通体系の構築は、  
高齢化が進む阿佐東地域に、適応したもの
- ・ 鉄道沿線へのシームレスな乗り入れにより、  
地域公共交通の拡充が期待できる

## 阿佐東線への「DMV導入」の目的③

### ③ 防災面の強化

線路と道路の両方を走れるDMVは、  
「南海トラフ巨大地震」などの大規模災害発生時において、  
残った線路と道路をつなぐことで  
「交通機能の維持」が図れ、  
「支援チームの派遣」や「救援物資の輸送」など  
被災者支援をいち早く行うことが可能


# ①これまでの取組み内容

---

# これまでの取組み

## 国などの取組み

JR北海道によるDMV技術開発



車両                      運転保安システム



国土交通省  
「DMV技術評価委員会」の中間取りまとめ  
(H27.10.30)

<前提条件>

- ・専用線区:DMVのみが走ること
- ・単車運行:連結させないこと                      など

【結論】  
前提条件はあるものの、**技術的には特に問題なし**




実用化が可能と判断

「阿佐東線DMV導入協議会」を設立

初会合 平成28年5月26日

内 容

- ・これまでの取り組み内容を確認
- ・今後の取組み方針を確認



本格的な取組みに着手

## 阿佐海岸鉄道の取組み

- 実証運行 : 平成23年度
- ・運行日 平成24年2月10日、11日、12日
  - ・運行便数 3便/日
  - ・走行箇所 鉄道:JR牟岐線、阿佐東線  
道路:国道55号(室戸方面)など
  - ・乗車者数 188名



JR牟岐線を走るDMV



国道55号を走るDMV

駅舎改築基本計画(案)の策定 : 平成25年度  
線路と道路をつなぐ「接続施設」や「駅ホーム」  
などの駅舎の整備の方向性を策定



## 第1回本協議会以降の取り組み内容

### 1 車両製作

- ・DMVの車両製作に向け、関連企業と調整を実施
- ・結果、車両製作に一定の目処

### 2 駅舎改築（線路・道路の接続施設、ホームなど）

- ・各施設の取り扱いについて、国土交通省と協議を実施

### 3 鉄道の信号保安システム

- ・通行手形を持つ列車のみが走行できる  
信号システムの検討を開始

### 4 その他

- ・JR牟岐線（阿波海南－海部間）について、  
JR四国と調整を開始

## ②本日の協議事項

---

- I DMVの運行区間について
- II 車両の製作台数について
- III 導入スケジュールと概算事業費について



# I DMVの運行区間(鉄道部) (案)

## <検討状況>

- ・DMVの運行にあたっては、「線路」と「道路」をつなぐ「接続施設」が必要
- ・「接続施設」の整備にあたっては、「駅舎改築基本計画(案)」を参考に「コスト」と「利便性」から総合的に判断すると、高架駅である「海部駅」より、地上駅である「阿波海南駅」が有利

## <方向性>

- ・鉄道部の運行区間としては、「阿波海南駅」-「甲浦駅」間とする
  - ・「阿波海南駅」と「甲浦駅」に「接続施設」を整備する
- ※途中駅となる「海部駅」「宍喰駅」(共に高架駅)には、「接続施設」は設けない



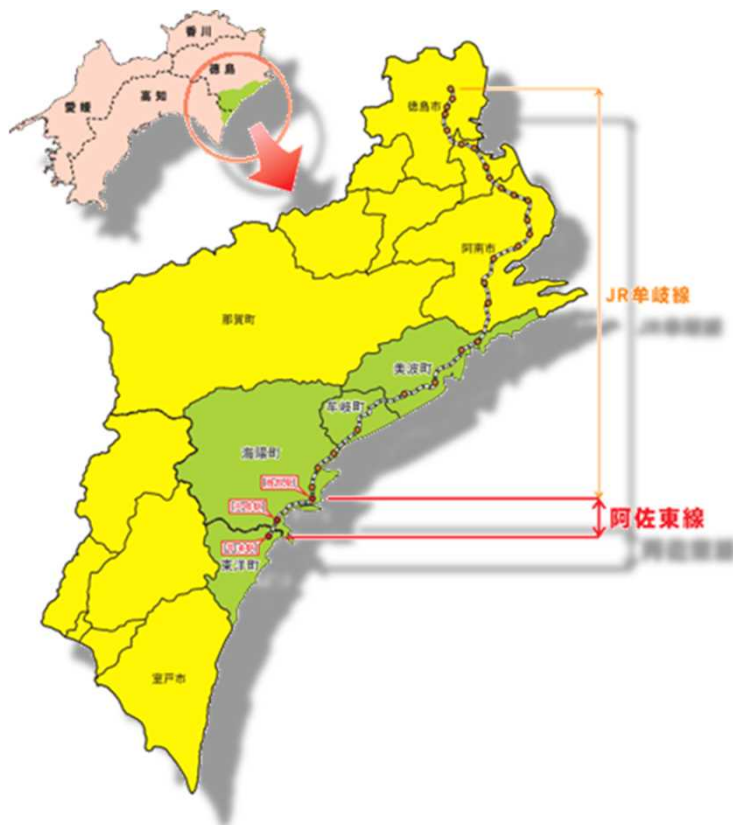
# I DMVの運行区間(道路部) (案)

## <検討状況>

- ・阿佐海岸鉄道(株)が道路運行することは、新たな付加価値となる
- ・阿佐海岸鉄道(株)が「バス事業者」の許可を取得するためには、「車庫の整備」や「運転手の確保(第二種運転免許)」などが必要

## <方向性>

- ・道路部の運行については、まずは「周遊観光」や「イベント利用」などの「観光用途」での運行を目指す  
(当面の運行主体は、地元バス会社へ運行委託を想定)
- ・路線バスなどその他の用途については、今後、検討を進めていく



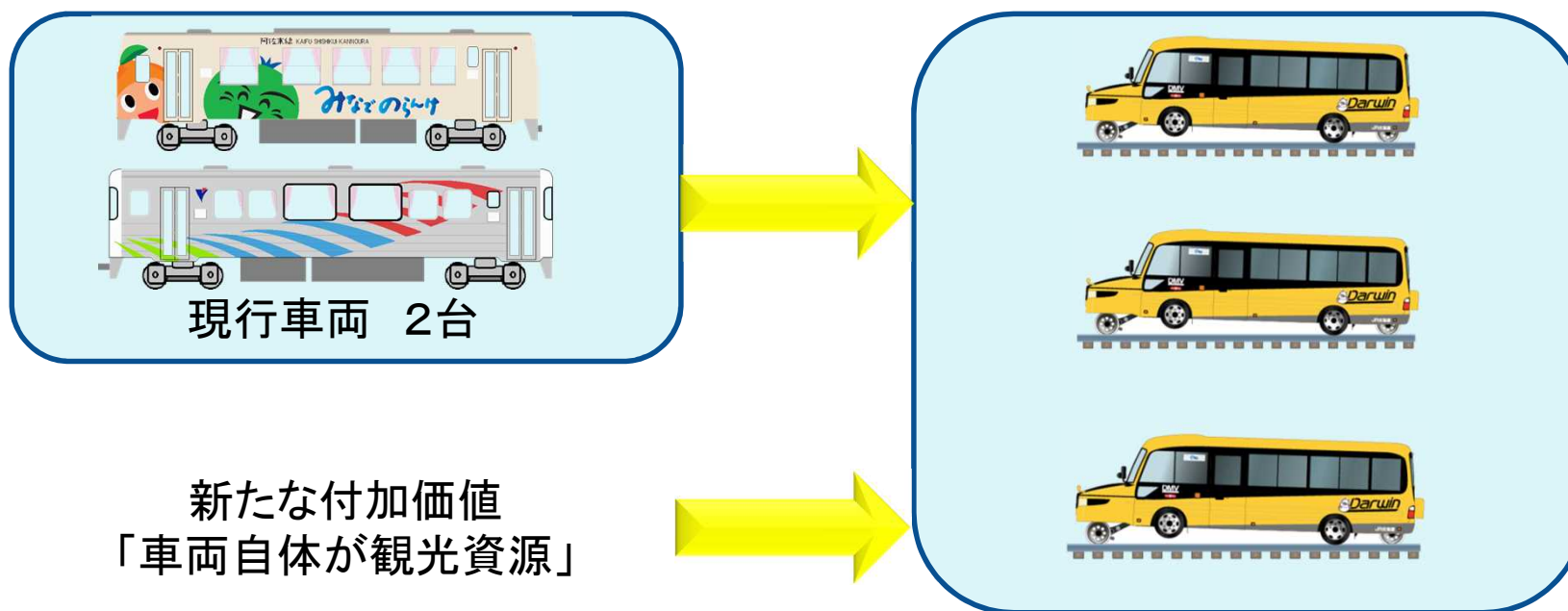
## Ⅱ 車両製作台数（案）

<検討状況>

- ・鉄道の運行には、「定期点検・検査」などに対応するため、複数台の所有が必要
- ・「車両自体が観光資源」であることから、DMVは阿佐東線の新たな付加価値となり活用の幅が拡大

<方向性>

- ・現行ディーゼル車両(2台)の更新、更に新たな付加価値として、「観光用途」での活用を行うため、DMV車両を3台調達



**当面の計画としては、合計3台のDMV車両を調達する**

### Ⅲ DMV導入スケジュールと概算事業費（案）

＜検討状況＞

- ・「車両製作」は、関連企業と更に詳細な工程・費用の詰め及び国土交通省との調整が必要
- ・「駅舎の改築」「信号設備の整備」は、今後、調査設計を進めるとともに、鉄道・バスの運行体制や事業に必要な法令上の手続きについては、JR四国や国土交通省と調整し、検討を進める

＜方向性＞

- ・「車両製作」は、平成29年度に発注し、平成31年度までに3台の完成を目指す
- ・「駅舎の改築」「信号設備の整備」は、「車両製作」と並行して実施
- ・運行開始を見据え、実車を使った「イベント」を実施し、地元の受け入れ体制を構築
- ・関係自治体は、平成29年度以降、所要事業費の予算要求を行う

H29.1月末現在

項目	概算事業費	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (平成32年度)
車両製作	約3.6億円		車両製作	試験走行 法令手続きなど	東京オリンピック・パラリンピック 運行開始
駅舎の改築 (接続施設・ホーム等)	約2.8億円	詳細設計	本工事		
信号設備等 の整備 (阿佐東線・JR牟岐線)	約3.6億円	検討・設計など	施設整備		
受け入れ体制の構築 (DMVイベント)	—	DMV わくわくイベント		DMV運行直前 カウントダウンイベント	

**目標：「東京オリンピック・パラリンピック」までの運行を目指す**

## ③今後の検討事項

---



## 今後(当面)の取組み内容

### ○DMVの活用策の検討

- ・DMVの導入の目的を達成するため、DMVのポテンシャルを最大限に発揮する手法の検討を進める
- ・バスモードについて、「周遊観光」などの運行を目指すにあたっては、「観光ルート」の設定や「イベントへの利用」などを関係自治体と検討する

### ○JR四国との調整

- ・JR牟岐線の阿波海南駅－海部駅間を譲受するにあたりJR四国や国土交通省と、具体的な処理について協議を開始する